

令和4年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	世羅町立世羅小学校	校長	早間 貴之	生徒指導主事	河野 竜也
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『世羅小プロジェクト活動～選挙活動期間の取組～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	2	「主体性」	1	「自らへの自信」	3

取組のねらい

主体的に役割を分担し、学校生活の課題を解決するという自治的な活動を通して、他者と協力して学校のために自分の力を発揮していこうとする態度を育てる。また、公約実現に向け、学校のために動く経験、動いて変わったことを他者から評価される経験を積ませる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『みんなが成長できるプロジェクト活動を』
----------	---------------------------------

○児童会選挙の選挙活動期間に、立候補者がプロジェクトを立ち上げる。その活動を選挙活動に位置付け、活動する姿を見て、誰が児童会役員にふさわしいか投票で選ぶ。

①立候補者以外の児童は、必ずいずれかの推薦者となり、全員の取組にする。

②「～な学校にしたい」という公約のもと、それを実現するための『○○プロジェクト』を立ち上げ、活動する。

(例)【みんなが人を大切にする学校にしたい】
→『思いやりプロジェクト』を立ち上げ、掃除時間などで、自分の担当の場所が終わった後、違う場所もきれいにする。また、学校のために朝の時間や休憩時間を使って、掃除やお手伝いをする。自分達以外にも、人や学校のために行動している人がいれば、写真に撮って、校内へ掲示する。

(例)【みんなが気持ちよく過ごすことのできる学校にしたい】
→『楽しくスリッパそろえプロジェクト』を立ち上げ、トイレのスリッパを楽しく揃えることができるように、花の絵を貼り、スリッパを揃えると花の形になるようにする。また、放送で、きれいに揃えている場所を放送し、評価することで頑張ろうという意欲をもたせる。

○選挙活動期間前に、準備期間を設けることで、学校のためにできることを考える時間が十分にとれた。また、現児童会役員を各立候補者に助言者としてつけることで、よりよい活動になるようにさせた。

○世羅小プロジェクト活動を高学年中心に年間を通して行わせることで、選挙活動期間だけの活動にならないようにしている。高学年の活動する姿を見て、1～4年生の児童も「自分達もやってみよう」と主体的に活動に参加することもある。



取組の成果と課題

○高学年児童対象のアンケートで「プロジェクト活動が楽しい」と肯定的に答えた児童は91%、「自分のプロジェクト活動はみんなの役に立っている」と肯定的に答えた児童は88%であった。

●コロナ禍で、異学年交流などの活動が制限されており、自分のしたい活動ができなかった児童がいた。また、6年生が全校の場で活躍する場面の設定も難しく、活動に意欲的に参加できない児童もいた。